

おうばいとうり 桜梅桃李

長南町立長南小学校
令和7年度6月2日
学校だより第3号

自分の花を咲かせよう!

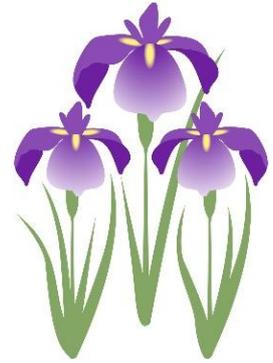
ちょうせんする子
うんどうを楽しむ子
なんでもやりぬく子

梅雨の季節が近づいてきました

紫陽花が色づきはじめ、雨の音に季節を感じる頃となりました。

子どもたちは新しい学年・クラスにもすっかり慣れ、日々の学校生活に意欲的に取り組んでいます。

6月は、雨の多い「梅雨」の時期ですが、草木がぐんぐん成長するように、子どもたちの心と体も大きき成長することを願っています。これから本格的に始まる学習や行事をとおして、自分の力を試したり、友達と協力したりする経験が増えていきます。一人一人がそれに向かって努力する姿を、学校全体で温かく見守っていきます。保護者の皆様の変わらぬご支援、ご協力をお願いいたします。



学校の様子

◎読み聞かせ開始

今年度の「読み聞かせ」が5月7日から始まりました。月に2回、地域のボランティアの方々、各教室に入り、本の読み聞かせをしてくれます。「読み聞かせ」は子どもたちの想像力や思考力を育むといわれています。子どもたちは、静かに耳を傾けていました。



◎引き渡し訓練実施

5月19日、非常時を想定した引き渡し訓練を実施しました。児童は先月の避難訓練の経験をふまえて速やかにグラウンドに避難できました。集合後は、保護者の皆様のご協力もあり、整然と保護者への引き渡しことができました。

ご家庭でも、防災について話題にしていたけるとありがたいです。



◎フッ化物洗口開始

5月16日、今年度のフッ化物洗口が開始されました。1年生は、歯科衛生士さんの指導を受け、水での練習をするなどの準備をして上手に洗口することができました。



◎メダカの赤ちゃんが生まれました!



昇降口正面にある水槽の横で、4月に保護者の方からいただいたメダカの卵がふ化して、小さなメダカの赤ちゃんが元気に泳いでいます。子どもたちは、数ミリの小さな小さなメダカの赤ちゃんに興味津々で、「赤ちゃん見つけた。」「早く大きくならないかな。」などと話しています。元気に大きくなるように子どもたちと一緒に見守っていきたいと思います。



◎6月のスクールカウンセラーの在校日について

今月は、6月12日(木)・24日(木)です。子どもたちの心のケアだけではなく、保護者から、お子様に関する相談も伺っています。「友達関係で気になることがある」、「学習面に不安がある」、「いつもと様子が違うようで心配」など、学校生活だけでなく、家庭生活のことで、スクールカウンセラーの高原佳子先生に相談したいことがありましたら、学級担任、担当の江澤、養護教諭の市原または、教頭宛にご連絡ください。



～ 読書活動で心豊かに ～

図書委員会からの
おすすめの本です。
ぜひ読んでみてください。



◎おすすめの本コーナーができました！

昇降口のはばたき広場の廊下に「おすすめの本コーナー」ができました。これは、図書委員会の「みんなにもっと本を読んでもらいたい」という思いから設置したものです。図書委員会の子どもたちが自分たちで本を選び、1冊1冊のポップを自分たちで考えました。

自ら本を手取る子どもたちが増えることが楽しみです。

本の紹介：「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」

くさばよしみ 編、中川学 絵、汐文社

「世界で一番貧しい大統領」として日本でもよく知られている南米ウルグアイの元大統領ホセ・ムヒカさんが、5月13日にお亡くなりになりました。89歳でした。ムヒカさんは言っています。

『「貧しい人」とは、限りない欲を持ち、いくらあっても満足しない人のことだ。でも私は少しのモノで満足して生きている。質素なだけで貧しくはない。』この絵本は、人の幸福とは何か、深く問いかける本です。(校長)

<まえがきより>

「2012年、ブラジルのリオデジャネイロで国際会議が開かれました。環境が悪化した地球の未来について話し合うためでした。世界中から集まった各国の代表者は、順番に意見をのべていきました。しかし、これといった名案は出ません。こんな会義も終盤に近づき、南米のウルグアイの番がやってきました。

演説の壇上に立ったムヒカ大統領。質素な背広にネクタイなしのシャツすがたです。そう、かれは世界でいちばん貧しい大統領なのです。給料の大半を貧しい人のために寄付し、大統領の公邸には住まず、町から離れた農場で奥さんとくらしています。花や野菜を作り、運転手つきの立派な車に乗るかわりに、古びた愛車を自分で運転して、大統領の仕事に向かいます。身なりをかまうことなく働くムヒカ大統領を、ウルグアイの人びとは親しみを込めて『ペペ』と呼んでいます。

さて、ムヒカ大統領の演説が始まりました。会場の人びとは小国の話にそれほど関心をいだいてはいないようでした。しかし、演説が終わったとき、大きな拍手がわきおこったのです。」

